

アриста通信 第55号

日頃より「アриста通信」をご愛読いただきありがとうございます。

アриста ライフサイエンスは、天敵昆虫、微生物農薬、化学農薬、マルハナバチ、バイオスティミュラントなどの資材を組み合わせる ICM を提唱しています。

今号では、神奈川県内 梨園での天敵利用によるハダニ対策の普及活動について、山本屋本店 山本様に小売店の声、フィールドアドバイザーの声など、お客様のお声、現場でのお声を多く掲載しております。

またオルトラン 50 周年キャンペーンや CM の放送、新発売するククメリス EX、ミニポール・ブラックの巣箱デザイン変更など 当社販売製品にまつわる情報を載せております。

これらの情報を通じて生産者の皆さんに役立つ生産資材を提供し、農産物の生産に貢献したいと考えています。

アриста ライフサイエンス(株) マーケティング部 部長 梶田 信明

<目次>

[お知らせ](#) P.2

[神奈川県「梨園/天敵資材を利用した難防除ハダニ対策」](#) P.5
[～普及活動を通じて～](#)

[<小売店の声> 島原市 合資会社山本屋本店 山本 正夫様](#) P.7

[<フィールドアドバイザーの声>](#)
[イチゴ栽培でのカブリダニ利用と温湿度管理](#) P.10

[海外ニュース](#) P.11

[さいごに](#) P.12

<お知らせ>

★ 春の園芸シーズンには「オルトラン」！ 「オルトラン 50周年キャンペーン」実施中！

総合殺虫剤「オルトラン」は、今年10月に国内での初登録から50年を迎えます。

ご愛顧への感謝の気持ちを込めて、北興化学工業株式会社と合同で、「オルトラン 50周年キャンペーン」を6月30日(金)まで実施しています。詳しくは、[キャンペーン専用ページ](#)をご覧ください。

●対象のオルトラン粒剤、水和剤のご購入後、Webのキャンペーン専用ページからご応募ください。

ご応募の際に、購入が分かるレシートなどの画像の添付とアンケート回答をお願いしております。

応募者の中から抽選で100名様に[JAタウン](#)(JA全農が運営する産地直送通販サイト)で使える5000円分のギフトカードをプレゼント！外れてしまってもダブルチャンスで、ハーゲンダッツギフト券が200名様に当たります。



★ 「ケムシに効くオルトラン」 TVCM、どうぞご覧ください！

有効成分が根から葉の隅々まで浸透移行する「オルトラン」は、アブラムシ類やアザミウマ類、ケムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガなどのイヤ～な害虫をしっかりと防除。50年経っても薬剤抵抗性害虫の発達の報告を受けない良剤です。

去年、樹木類のケムシ類に適用拡大したことをうけ、チャドクガやアメリカシロヒトリなどのイヤなケムシ類に効く「オルトラン」CMを4月中下旬より放送していますので、一部、放送例を紹介します。

野菜にもお花にも庭木にも「オルトラン」！引き続きのご愛顧をお願い申し上げます。

エリア	テレビ局	番組名 例	放送期間
全国	BSTBS	「町中華で飲ろうぜ」他	2023年4月22日(土)～5月7日(日)
全国	BS朝日	「農業始めちゃいました」他	2023年4月22日(土)～5月7日(日)
全国	BSテレ東	「ガイアの夜明け」他	2023年4月18日(火)、25日(火)、5月2日(火)
関東	テレビ東京	「種から植えるTV」他	2023年4月22日(土)～5月7日(日)

BSテレ東 ×**メジャーリーグ** **エンゼルス vs カージナルス**
特別番組 5月4日(木) 17:58～19:49



ボク達と大谷君、
ヌートバーを
応援しよう！



オルトランCMは
←こちらから
見られるよ



★ 予防的導入で長く効く！ 天敵殺虫剤「ククメリス®EX」発売のお知らせ

ククメリスカブリダニ剤「ククメリス」の餌をケナガコナダニからサトウダニに変更し、「ククメリス EX」という製品名で新たに販売致します。さらに使いやすくなる、新生「ククメリス EX」をよろしくお願ひします！

■ 「ククメリス EX」の特長

特長	定着性が高いので、アザミウマの発生前から導入して「待ち伏せ」させておくと効果的に密度抑制します。	イチゴでは、花に定着してアザミウマの幼虫を捕食し、増殖を抑制して果実被害を減らします。	餌がサトウダニになったので、ほうれんそうにも安心してお使いいただけます。
----	--------------------------------------------------	---------------------------------------------	--------------------------------------

ナス、ピーマン、キュウリなどを食害するおそれのあるケナガコナダニが餌ダニとして含まれる既存剤「ククメリス」と異なり、「ククメリス EX」は、餌ダニをサトウダニに変更することで食害リスクが無く、さらに使いやすくなりました。

サトウダニは、

- 栽培植物を加害しないから 作物に対する食害リスクがなくなりました！
- ケナガコナダニよりアレルギー発症リスクが低く、スワルスキーなどの他製剤でもアレルギー発症報告はありません。

■ 製品規格

	NEW ククメリス EX	ククメリス
農林水産省登録	第 24695 号	第 24096 号
有効成分	ククメリスカブリダニ 500 頭/10ml	
その他有効成分	サトウダニ ふすま	ケナガコナダニ ふすま
性状	淡褐色粒	
包装	1L ポリ瓶	

■ 出荷予定

ククメリス EX 2023 年 5 月 1 日(月) より出荷開始
ククメリス 2023 年 4 月 27 日(木) 最終出荷日にて販売終了



★ マルハナバチ製品「ミニポール・ブラック」の巣箱をリニューアルしました！

30周年の節目を迎え、本年1月に弊社の「ナチュポール(レギュラー)」と「ナチュポール・ブラック」が巣箱をモデルチェンジしました。

それに伴い、弊社 マルハナバチ製品ブランドデザインの統一化を図り、「ミニポール・ブラック」の段ボール製 外装箱も、前出の2製品とコンセプトを合わせたデザインになりました。

「ミニポール・ブラック」はデザインだけの変更ですので、巣箱の仕様変更や、巣門の開閉、花粉の給餌方法などの使用方法に関する変更はございません。

作り手も食べ手も笑顔にする、「ナチュポール」シリーズ にますますご期待ください！



ミニポール・ブラック
左：旧デザイン、右：新デザイン

【ご参考】「ナチュポール・ブラック」と「ナチュポール(レギュラー)」の現巣箱は↓こちら



左：旧製品 右：現製品

巣箱サイズ新旧比	
横幅：256 mm	横幅：295 mm
縦幅：285 mm	縦幅：265 mm
高さ：200 mm	高さ：200 mm

★ ナチュポール専用恒温 BOX「ナチュホーム」は新巣箱に対応済の内寸になっています！

「ナチュホーム」は蓋、上段、下段および保冷剤(500g)2つがセットになった製品です。組立てて使用。高温時には、上段に凍らせた保冷剤や500ml ペットボトルを入れられます。下段には、「ナチュポール」、「ナチュポール・ブラック」、「ミニポール・ブラック」のいずれか1巣箱をセットできます。

詳しくは、[「ナチュホーム」製品ページ](#) をご覧ください。



蓋

上段

下段

神奈川県「梨園/天敵資材を利用した難防除ハダニ対策」～普及活動を通じて～

アリスタ ライフサイエンス(株) 営業本部 東京営業所 川崎 寛之

【課題と天敵利用の背景】

神奈川県川崎エリアの梨栽培では、大きな三つの課題がありました。

①ナミハダニの薬剤抵抗性が確認され、化学農薬/殺ダニ剤を散布してもハダニ被害を抑制できない現状
②梨園の周囲に住宅地や公共施設等があり（都市部故に）、薬剤散布による住民や環境へのドリフト問題
③省力化(労力軽減)が挙げられます。そこで、この現状を打破すべく、神奈川県及び川崎市、農協等の協力のもと、ハダニ天敵となるミヤコカブリダニ剤「スパイカルプラス（吊り下げタイプ）」を基軸にしたIPM防除技術の普及に取り組んできた歴史があります。

【活動内容】

① 講習会の開催

毎年5月、川崎市農業技術支援センター内 梨園で、生産者参集のもと講習会を開催します。

主に「スパイカルプラス」の使用法や設置方法等を実演説明します。

毎回参加者が一体となり、熱を帯びた講習会には感銘を受けるばかりです。ここに産地としてハダニ対策に真剣に取り組む姿勢「プライド」を感じることができます。



<参考：スパイカルプラスの使用法>

使用時期：6月上旬 使用量：1～5パック/樹（約140パック/10a）

「スパイカルプラス」設置前に殺虫剤/ダニ剤含を散布、害虫密度を下げる(天敵への影響日数注意)。天敵導入後もハダニ発生状況を観察し、天敵に影響が少ない農薬/ダニ剤のレスキュー散布に備える。

② 圃場巡回

毎年6月から8月にかけて、県技術員・農協営農部等と協力して圃場巡回を行います。

6月は、新規天敵利用者を中心に「スパイカルプラス」の共同設置、7～8月は定期的に天敵の定着やハダニ、その他害虫の発生状況の調査を行います。

ハダニの発生状況によっては、天敵に影響が少ない化学農薬/殺ダニ剤の散布等の提案も行います。

常に、生産者と密接に関わることで、天敵による防除価の安定と生産者の不安解消を心がけています。



【新しい取り組み】

① 神奈川県横浜エリア/ミヤコカブリダニ剤の本格導入

今シーズン、横浜エリアで「スパイカルプラス」の本格的な導入が開始されます。

川崎エリア同様、薬剤抵抗性問題、梨園周辺住宅地への化学農薬ドリフト問題の解決、生産者の省力化(人工授粉の手間などの労力軽減)を主目的としています。

このエリアでは、新規天敵利用者が多数あり、天敵に対する不安を抱いている生産者が多くいます。講習会や定期的な圃場巡回を通して、生産者の課題や不安を払拭する手助けができればと思います。

② 在来種/クロマルハナバチを利用した受粉への取り組み

【課題：生産者の声】

- ・ 人工授粉作業そのものが手間であること
- ・ 人工授粉用の花粉の精製が手間であることと、中国からの輸入花粉に頼っている購入花粉の入手が不安定であること
- ・ 気候変動などにより、これまで品種間でズレていた開花期が重なり、人工授粉が間に合わないこと

【メリット】

品質向上/着果率・果形向上、省力化、花粉の調達が不要なので購入価や入手時期に悩まされない

これまで、着果率の向上を目的にクロマルハナバチによる交配試験を実施してきました。その中で、クロマルハナバチによる受粉によって、着果率だけでなく果形の向上等の結果を得ることができました。まさに、生産者や関係機関の協力と努力の賜物です。

その結晶として、今シーズンからクロマルハナバチ資材「ナチュポール・ブラック」の本格的な導入が始まりました。

3月下旬、開花に合わせて「ナチュポール・ブラック」を導入する圃場を巡回し、設置方法等を説明。生産者と共同で「ナチュポール・ブラック」を圃場に設置しました。秋の収穫が楽しみです。

※クロマルハナバチの利用には、鳥害防止や逃亡阻止を目的に、多目的防災網やハチネット等の展張が必要です。



【活動を通じて感じたこと】

普及活動を通じて、生産者のリアルな声(課題)をより近くで耳にする機会が多くなりました。自社製品で「この課題を解決することができないか！」とワクワクしながらも苦闘する毎日です。

この神奈川県における天敵製剤「スパイカルプラス」の普及は、苦しみながらも楽しく 生産者の声を成功に導いた良い事例ではないでしょうか。やはり、生産者はじめ関係機関が一体となり、情熱をもって取り組むことが重要である と改めて感じた次第です。今後、この「スパイカルプラス」を利用した技術を神奈川県から関東一円の産地へと広げていき、生産者の課題を解決できればと考えています。

どの産地でも、薬剤抵抗性問題、担い手や人手不足問題、周辺住宅への環境問題等を抱えているのが実情です。

私たちは、これまで同様に生産者に寄り添いながらこの課題解決に取り組んでいきたいです。



<小売店の声> 長崎県島原市 合資会社山本屋本店 代表社員 山本 正夫 様

合資会社山本屋本店がある島原市は、長崎県南部の島原半島に位置しています。島原半島はバレイショ、ダイコン、ニンジン、レタス、スイートコーンなどの露地栽培だけでなく、イチゴ、キュウリ、スイカなどの施設栽培が多い地域であり、年間を通して多種多様な品目が栽培される、長崎県で最も農業が盛んな地域です。

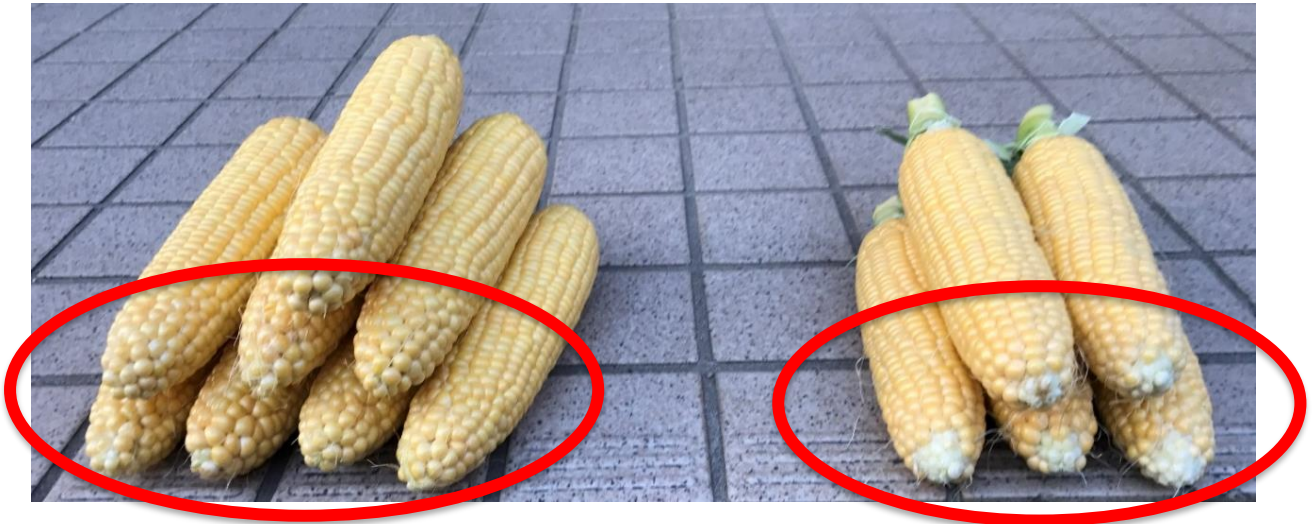
そんな農業地域で肥料を中心に、農薬・種子・農場資材を販売している合資会社山本屋本店では、弊社バイオスティミュラント製品 植物由来成分入り葉面散布用肥料の「ハーモザイム」を長崎県内で先行して積極的に販売頂いています。

そこで今回は、販売までの取組みについて山本 正夫社長にお話を伺いました。



「ハーモザイムに取組み始めたきっかけは、2017年にアリスタからハーモザイムの紹介を受けた当時、スイートコーンでは先端不稔が課題となっていたからです。

商品紹介のなかで、ハーモザイムがトウモロコシ由来の肥料ということで、先端不稔が少しでも改善されないかと思い、2018年にプレ試験を実施してみたところ、不稔が軽減されるという結果が見えました。



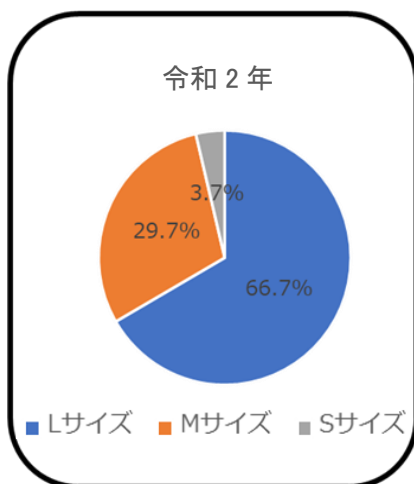
試験実施年：2018年 品種：ゴールドラッシュ
 左：ハーモザイム区 右：無処理区 先端不稔が顕著に改善された

そこで2019年に本格的に試験を開始し、その作においても結果が良かったことから、翌年よりスイートコーン農家向けに推進しました。実際、使用した農家からも良かったという声を受け、2022年には大規模に宣伝しながら積極的に販売した昨年作においても農家から好評だったことから、今期についても積極的な販売を進めているところです。

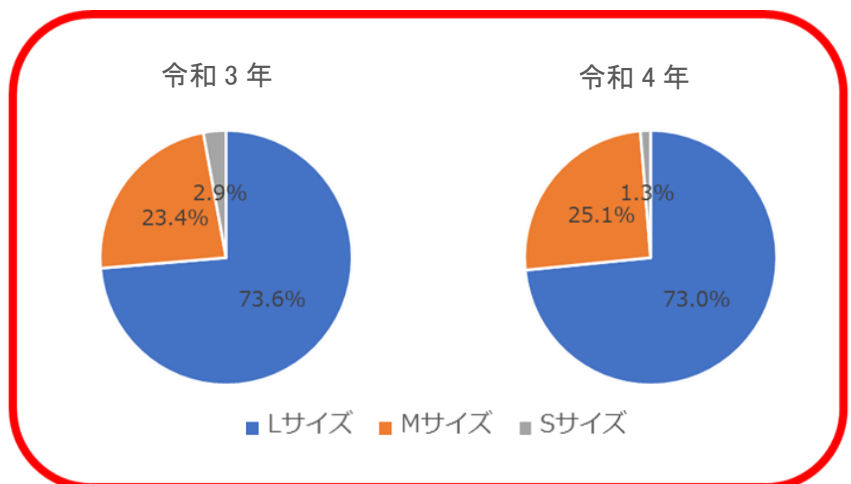
そのほか島原半島には多種多様な品目があるので、スイートコーン以外でも試験をしたりしています。」

■その他の作物での取組み

スイートコーンでの評判をきっかけにソラマメ農家の方が「ハーモザイム」に興味を持ってくださり、エダマメでも使用実績があるならソラマメでも効果があるのではないかと試してくださいました。利用の目的としては、ソラマメの序盤（下段）の花は4粒（Lサイズ）率が高いが、どうしても中段以降でLサイズ率が下がりやすいため、試しに「ハーモザイム」を中段の満開時と上段の満開時の計2回散布してみたところ、2年連続でLサイズ率が上がるという結果になりました。使用したソラマメ農家の方も収益が20%上がったと満足されています。



無散布



ハーモザイム散布



左) ハーモザイム散布時期(上段満開時)、右) 散布約1ヶ月後のソラマメ圃場



「今後の展開として、ハーモザイムの利用が良質花粉につながるならば、他の果菜類(キュウリ、スイカ、ゴーヤー(*編集部注: にがうり) など)にも推進していきたいと考えております。」



旧

NEW



ハーモザイムのボトルが新しくなりました！
 なで肩ボトル、キャップが黄緑色からオレンジ系になります。
 内蓋の銀シールがなくなったので、開栓したらすぐにお使いになれます

<フィールドアドバイザーの声>

イチゴ栽培でのカブリダニ利用と温湿度管理

アリスタ ライフサイエンス(株) フィールドアドバイザー 伊村 務

イチゴ栽培では、スパイカル EX(ミヤコカブリダニ剤) + スパイデックス(チリカブリダニ剤) の利用が普及しました。現在、アザミウマの天敵である「リモニカ(リモニカスカブリダニ剤)」と「ククメリス(ククメリスカブリダニ剤)」の利用者も増えてきたところです。実用化に向けた試験に御協力いただいた生産者の皆さん、JA の指導員や県の普及指導員の皆さんには感謝いたします。

ところが、普及が進んだ現状でも、天敵カブリダニの定着・増殖が思わしくないと相談を受けることがあります。

まずは天敵導入前からの農薬散布履歴を確認するわけですが、影響日数については、弊社の資料や指導機関からの情報をもとに徹底されており、化学農薬が原因と考えられることは多くありません。

そんな時に確認したいのがハウスの温湿度管理です。

下の表にイチゴで利用されるカブリダニ 4 種の温湿度適性を示します。

それぞれの活動可能温湿度を厳寒期のハウスでどれだけ長時間保つことができるか、カブリダニ利用が成功するための大きなポイントです。

暖房機で加温しているハウスでは、最低気温 10℃以上を維持している場合が多く、温度面では天敵利用に支障はありません。しかし、特に軒の高いハウスは乾燥しやすく、湿度を保つ工夫が必要です。

高設栽培では、草勢維持のために通路やベンチ下に積極的に散水して湿度を保っている事例がありますが、このようなハウスでは、カブリダニ類の定着も良好です。

一方、ウオーターカーテン保温のハウスでは、最低気温 10℃以上を維持している所は少ないのではないのでしょうか。設定温度 6℃というハウスも少なくありません。しかもウオーターカーテンの散水量が少ないと保温効果が落ちるので、実際の最低気温が設定温度を下回っていることもあります。

また、太平洋側の地域では、厳寒期＝異常乾燥期間でもあります。特にパイプハウスでは、換気による湿度低下が著しいことにも注意が必要です。冬にメガネが曇らないハウスが時々ありますが、かなりの乾燥が考えられます。

厳寒期のハウス内の温湿度を高めることは、カブリダニ類の定着・増殖に有効で、草勢維持にもつながります。一方で、うどんこ病や灰色かび病の発生を助長し、害虫の増殖にも好条件になってしまいます。

イチゴ生産者が様々な条件を踏また上で温度・湿度を設定しているのに、いきなり変更することは難しいですが、カブリダニ類の定着・増殖が思わしくない場合は、温湿度の実態を把握した上で、改善を検討することをお勧めします。

イチゴで利用される天敵カブリダニ類の温湿度適性（弊社 HP より抜粋）

カブリダニ名、製品名	活動可能温度・湿度		適温・適湿	
	℃	RH%	℃	RH%
チリカブリダニ「スパイデックス」	12～30	50 以上	20～25	70 以上
ミヤコカブリダニ「スパイカル EX」	12～35	—	25～32	60 以上
リモニカスカブリダニ「リモニカ」	10～30	60～90	20～30	70 以上
ククメリスカブリダニ「ククメリス」	12～35	—	20～30	65 以上

<海外ニュース> 「バイオインプット」とブラジルの話

天敵昆虫、微生物農薬、バイオスティミュラントに続いて近年話題になりつつあるのが、「バイオインプット」という言葉です。

「バイオインプット」とは、なんでしょうか？

それは、バイオスティミュラントや生物農薬に加え、バイオフィューチャー（バイオ肥料）、生物系土壌改良剤、生物ベースの生長促進剤、微生物イノキュラント（根粒細菌）などが含まれます。

つまり、土壌、植物に生物系の成分を施すことを「バイオインプット」と称しているわけです。

これらのバイオ製品が最近どこで、よく使われているかという点でブラジルなのです。

ブラジルは世界最大の農薬使用国のトップ3の一つであり、生物農薬系の製品の販売金額が400億円程度あるようです。

化学農薬の販売金額に比例して多いということは十分推測できるのですが、さほどオランダや日本のように温室の比率が高くない国で、かなり使われているということは、野外の作物で使用されていること示していることとなります。

大豆や、トウモロコシ、綿花などで、センチュウや害虫防除用に使用されているようです。

生物農薬に加えて、バイオスティミュラントの利用も盛んで海藻系が使用されています。

なぜブラジルでバイオが盛んに用いられているのか、その理由の一つとしては、根粒菌などの窒素固定菌の利用が以前から盛んで、その微生物の活動を妨げない剤が必要であった、また、こちらのほうがより重要かもしれませんが、ブラジルの農産物は基本的に輸出産業です。

農薬残留の問題、SDGsの問題などをクリアにするため、生物的手法が好まれているとは言えます。

とはいえ、ブラジルでの農薬の利用は隆々としたものであり、生物、化学の両方の手法によって、世界の食料生産を担うブラジル農業は今後も斉唱しつづけるのでしょう。

このブラジルの手法を追従しているのが、中国と言われています。

今後どのような戦略で両国が、IPM、「バイオインプット」、バイオスティミュラントを開発していくか興味深いところです。

因みに、微生物殺虫剤であるイサリア フモンロセウス（イサリア菌）やトリコデルマの製剤はブラジルで、よく使われています。

もちろん、野外の作物に対してです。

今後の調査が望まれるところです。

（文責：和田 哲夫）

<さいごに>

弊社製品のお問い合わせは、お近くの JA、小売店などをお願い致します。

また、弊社開設のホームページにも IPM 関連情報が掲載されていますので、あわせてご覧ください。

(<https://www.arystalifescience.jp/>)

『アリスタ通信』は、おかげさまで第55号となりました。

皆様からのご質問、ご意見、ご感想をお待ちしております。

また、今回が初めての配信で、バックナンバーをご希望の方、今後の配信をご希望されない場合も、弊社ホームページよりお問い合わせフォームをお選びの上、お気軽にお送りください。

<https://www.arystalifescience.jp/ipm/ipmtsuushin.php>

次回『アリスタ通信』第56号は、2023年7月の発刊を予定しております。

今後とも弊社製品を宜しく願います。

アリスタ 通信

発行人： マーケティング部 部長 梶田 信明
編集責任者： マーケティング部 技術顧問
和田 哲夫
発行者： アリスタ ライフサイエンス(株)
住 所： 〒103-0027
東京都中央区日本橋一丁目 4 番 1 号
日本橋一丁目三井ビルディング 19 階
電 話： 03-5203-9350
発行日： 2023 年 4 月 28 日

■ 編集後記

バラの花が咲き始めています。

イングリッシュローズから始まり、アンネ・フランクのバラ、ボレロ、ラジオ、シャガール。どれも香りが高く、香を楽しめます。

ただ、開いた花を長く放っておくと、花びらの一番の奥の奥に、花アザミウマが飛来して、ぞくぞくと増殖？していきます。

オルトラン粒剤の出番です。

香にかわりに、アザミウマを吸い込んだら困りますから！

今号では、ブラジルの生物農薬が野外の作物で使われていることについて報告しました。

種子処理や、土壌処理で、センチュウなどが防除できるようです。

注目を浴びる分野になりそうです。

(哲生)

【著作権について】

本紙に記載された内容の著作権は特に記されない限りアリスタ ライフサイエンス(株)に帰属し、記載内容の無断での引用・転載を禁止します。なお本紙の内容を変更することなく、転送その他の方法で配布・周知される場合はこの限りではありません。掲載されている写真(製品外観、天敵、害虫など)の転用をご希望される方は、その旨ご依頼ください。用途や媒体により『写真提供:アリスタ ライフサイエンス(株)』とのキャプションをお願いすることもございます。